

## 未来プロジェクト TSUNAGU21 II

### 〈グループD〉

### 望ましい将来像の提案

#### ～ コロナ×エッセンシャルワーカー ～

伊澤 咲穂<sup>1)</sup>, 笹井 啓佑<sup>2)</sup>, 長野 樹<sup>3)</sup>

野本 泰洋<sup>4)</sup>, 廣野 晃一<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> 在原環境プラント(株) 営業本部 営業第二部 九州支店  
(〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル E-mail:izawa.sakiho@ebar.com)

<sup>2)</sup> (株)堀場アドバンステクノ 新製品開発3部  
(〒601-8551 京都府京都市南区吉祥院宮の東町2番地 E-mail:Keisuke.sasai@horiba.com)

<sup>3)</sup> 山口大学 工学部 循環環境工学科4年  
(〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1 E-mail:i028fj@yamaguchi-u.ac.jp)

<sup>4)</sup> 東京農業大学 国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 博士後期課程1年  
(〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 E-mail:13421005@nodai.ac.jp)

<sup>5)</sup> (株)日立製作所 水環境ビジネスユニット 水事業部 社会システム本部 西部プロジェクトマネジメント第二部  
(〒460-8435 愛知県名古屋市中区栄三丁目17番12号 大津通電気ビル7F E-mail:koichi.hirono.uu@hitachi.com)

#### 概要

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことにより、新常态という概念が生まれ、医療、小売、通信、物流、電気、ガス、水道、行政といった業種を担うエッセンシャルワーカーの重要性が明らかになった。そのため、これからの新常态におけるエッセンシャルワーカーに対する社会の課題と望ましい将来像について考え、エッセンシャルワーカーやその関係者にとっても相互に価値を提供するスキームの構築を提案することとした。結果として、衣食住をベースとした相互作用関係の構築をスキーム確立により実現する具体策を考案した。

キーワード：COVID-19, エッセンシャルワーカー, 保障, 衣食住, 付加価値

原稿受付 2022.1.7

EICA: 26(4) 34-38

## 1. はじめに

### 1.1 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2019年12月に「原因不明のウイルス性肺炎」として確認されて以降、世界的に感染が拡大している。世界における COVID-19 確定者数は、2億7千万人を超え、死者数は530万人にまで上っており (2021年12月21日現在)<sup>1)</sup>、依然として人類への脅威となり続けている。日本においても2020年1月に初の陽性者が確認されて以降、170万人以上の感染が確認されている (2021年12月21日現在)<sup>2)</sup>。COVID-19はエアロゾルにより感染が拡大することから、「3つの密 (密閉・密集・密接) = 三密」を回避することが求められ、経済・生活様式・医療・エンタメ等、社会や文化に大きな変化をもたらしている。特に、企業においては三密を避けるため、ICT (情報通信技術) 等を活用し、普段仕事を行う事業所・仕事場とは違う場所で仕事をす

るロケーションフリーワークが推奨された。2021年に日本経済団体連合会から発表された、緊急事態宣言下におけるテレワーク等の実施状況調査<sup>3)</sup>によると、2021年1月の緊急事態宣言対象地域である11都道府県 (東京、埼玉、千葉、神奈川、栃木、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡) では、約87万人の出勤者の削減が実現された。一方でコロナ禍においても出勤を余儀なくされ、COVID-19の感染リスクの矢面に立った労働者がエッセンシャルワーカーである。

### 1.2 エッセンシャルワーカーとは

エッセンシャルワーカーとは、最低限の社会インフラ維持に必要な労働者のことである。医療、小売、通信、物流、電気、ガス、水道、行政といった業種が該当し、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室作成資料においては、日本国内のエッセンシャルワーカーは、2725万人にのぼると試算されている。そして、現場勤務の労働者が多く、勤務場所や勤務時

間の調整が難しいことや、不特定多数の人と接触する機会が多い等の特徴がある。また、社会インフラ基盤を支える業種であることから、緊急事態宣言発令下での勤務継続を求められ、COVID-19の感染リスクに直面した。そのことから、肉体的、精神的負荷が大きくなる傾向にあるが、負荷に見合う賃金を得られない、労働環境が劣悪であること、および人手不足により長時間労働を求められるなど、エッセンシャルワーカーに対する社会課題は多い。

## 2. エッセンシャルワーカーに対する社会の課題

COVID-19の感染リスクを踏まえた上で、エッセンシャルワーカーにとって雇用、保障、本人の健康面から課題があると推察した。

### 2.1 雇用

1つ目の視点は、雇用の確保である。厚生労働省の令和元年賃金構造基本統計調査(初任給)の概況<sup>4)</sup>によると、主な産業別初任給は、大学卒では、男女ともに学術研究、専門・技術サービス業(男性229.0千円、女性223.8千円)、情報通信業(男性218.3千円、女性217.8千円)が高い。一方で、エッセンシャルワーカーが多いとされる運輸業、郵便業(男性203.4千円、女性199.1千円)、宿泊業、飲食サービス業(男性203.7千円、女性199.0千円)、医療、福祉(男性204.0千円、女性208.1千円)は賃金が低い結果となっている。

また、総務省統計局<sup>5)</sup>によると、産業別常用労働者1人平均月間総実労働時間数は調査産業計(144.5時間/令和元年)と比較して運輸業、郵便業(164.0時間)や電気・ガス・熱供給・水道業(154.4時間)などは長時間の傾向があり、ひいては慢性的な人手不足が長時間労働に拍車をかける要因の一つとも考えられていた。上記のようにエッセンシャルワーカーの雇用形態は、以前からCOVID-19の感染リスクとは無関係の課題を内包していた。加えてCOVID-19によって不特定多数の人と接触する業務は収入源であるにもかかわらず感染リスクの側面まで持つこととなった。しかしリスクを避けるために職を手放す選択肢をとることは現実的ではなく、結果としてリスクに直面しながら生活を維持せざるを得ない厳しい現実がある。

### 2.2 保障

2つ目の視点は、エッセンシャルワーカーに対する保障である。ワクチンの優先接種の権利、厚生労働省からの新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業の給付等はあるが、資金のみの支援で心的ケア

が不足していることが課題として考えられる。他にも物流業界等の長時間労働や交付金対象業種以外のエッセンシャルワーカーへの保障など、不十分であると言える。

### 2.3 本人の健康

3つ目の視点は、本人の健康である。エッセンシャルワーカーは、人々の生活、および社会インフラ基盤を支える労働者であるため、通常業務を停止することが出来ない。人と人との対面で関わらざるを得ない職種がほとんどであり、対面型ではない他の職種と比べて、感染リスクを負う可能性は高い傾向にあると言える。エッセンシャルワーカーは、第三者の健康を守る一方で、自身の健康が脅かされるリスクに直面している課題があり、SDGsの理念「地球上の誰一人取り残さない」がある一方で、指標の3番目「すべての人に健康と福祉を」を達成するために、自己犠牲を払う状況になっていると言える。

## 3. 社会の「新常態」としての望ましい将来像

### 3.1 雇用関係を超えた視点での将来像

コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーにとっての課題について上述した。それでは、COVID-19によるパンデミックの経験を教訓とした社会の「新常態」としてどのような将来像が望ましいと考えられるのだろうか。本稿では、当該課題について、社会の「新常態」としてSDGsに貢献する形での新しい提案を行うべく、エッセンシャルワーカーと雇用する企業の関係性のみならず、エッセンシャルワーカー個人から、社会組織レベル、国レベル、世界・地域レベルの視点までスケールを変えて、3つのキーワード(雇用・保障・本人の健康)についてそれぞれ検討を行った。検討内容をFig.1に示す。

エッセンシャルワーカーの視点では、健康リスクなく働くことができる環境が望ましく、リスクがある場合でもリスクに対する保障は本人の希望が最大限尊重され、かつ生活が担保されなければならない。その理由は、過酷な労働環境下におけるエッセンシャルワーカーのモチベーション低下を防ぎ、人々の生活と社会インフラ基盤を維持する活力が必要不可欠だと考えられるためである。一方、社会組織レベルでは、所属する個人がリスクに対して自由な選択を行っても、組織が持続的に成長できる状態が望ましいと考えられる。さらに国レベルにおいては、そもそも国民がリスクを回避できるような技術やシステムが整備されている状態であることが望ましい。そして、未曾有の事態においても自国の産業を維持し、その施策をタイムリーにグローバル展開する仕組みを構築することで、全世界

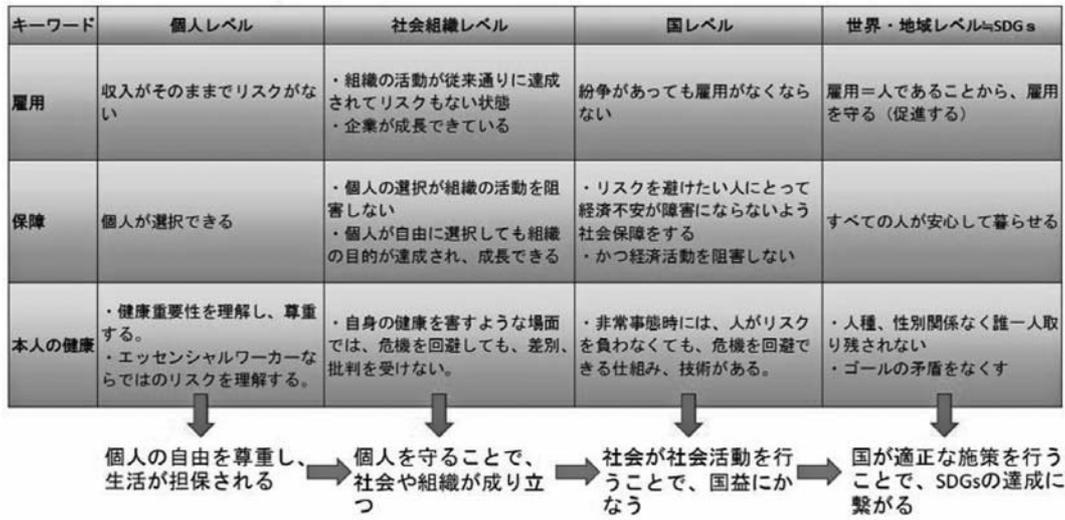


Fig. 1 Framework of 3 key words

的にパンデミックに対する耐性を持つことが期待できる。

### 3.2 無償提供や保障によらない対策

今回のパンデミックによって顕在化したエッセンシャルワーカーの課題に対し、業務の重要性に見合った人員の拡充や賃金の向上、また感染リスクに対する保障などが必要であるとの提言が多くなされている。また、エッセンシャルワーカーの現状に対し、募金や物品・サービスの無償提供によって負担を軽減する活動も積極的に行われるようになってきた。ところが、望ましい「新常态」をより大きなレベルで検討したとき、一方的な提供に頼るのではなくエッセンシャルワーカーの所属する組織の成長を伴う対策の必要性についてはあまり議論されていないと考えられる。無償提供を続けられる期間は有限であり、エッセンシャルワーカー本人をリスクから守りながら社会組織や国全体として成長を続けるためには付加価値の創出が不可欠である。

以上より、我々はエッセンシャルワーカーを取り巻く環境が相互作用によって価値を生み出すことで、エッセンシャルワーカー本人を守り、自由な選択をす

ることができる将来像を検討した。

### 3.3 相互に価値を提供するスキームの構築

社会の「新常态」の望ましい将来像として、エッセンシャルワーカーやその関係者にとっても相互に価値を提供するスキームの構築を提案する。具体的な流れは Fig. 2 に示す。厚生労働省と経済産業省の協力により、国が主体となってスキームを推進することでエッセンシャルワーカーを中心に衣食住の側面からアプローチを行う。

#### (1) 衣

衣食住における「衣」は本来、体を守る（寒さから守る、怪我から守る）ことが主であったが、昨今ではファッションとしての要素が大きくなっている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により人々の外出する機会が減ったことから、ファッション業界は大きな打撃を受け業界全体が落ち込んでいる。一方で、体を“新型コロナウイルス感染症から守る”マスクや手袋などの衛生用品の需要が急激に増加し、人々の中で、特にエッセンシャルワーカーにとって生活必需品になっている。

マスクや手袋は現状でも十分普及しているが、

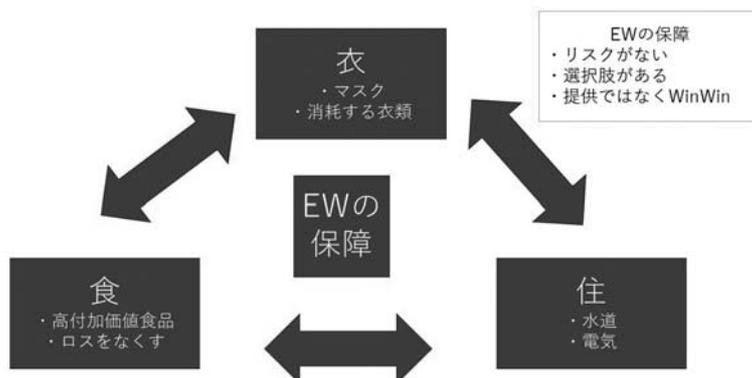


Fig. 2 Image of the platform

ファッション業界が今より利便性の向上やファッションとしての価値を高めることで、購入したエッセンシャルワーカーが楽しく着用できるようになれば、着用率の向上によるリスクの低下や業界売り上げの回復が見込まれる。衛生用品だけでなく様々な業界の制服や作業着もターゲットにし、機能性、安全性、動きやすさを維持したうえで、新たな形として華やかでインフォーマルなものを提供することで、業界のイメージアップに貢献するとともに、衣料メーカーのブランド価値を高めることができる。例として、私たちの生活廃棄物を回収するゴミ収集員が、快適に着用できるマスクや手袋で働くことで精神的負荷を軽減でき、華やかで見栄えのする制服を着ていることから印象が良くなるといった効果が期待できる。

個人やファッション業界だけでなく、エッセンシャルワーカーが所属する組織が一体となって意識を変えていくことで、上記の環境構築が可能になるものと考えられる。

## (2) 食

私たちの食を支える農業、水産業など一次産業に従事する人々も COVID-19 によって大きな被害を受けているエッセンシャルワーカーである。特に、小学校、中学校では、一斉休校や給食の簡素化が起これ、食料需要の減少という問題が顕在化し、加えて各種イベントの中止や外食、観光産業の低迷がさらに問題を大きくしている。このような課題に対して、生産者に安定した仕入れを行い、保護を行う必要がある。具体的なアプローチの例として、(株)コークッキングの TABETE<sup>†</sup> というアプリサービスがある。これは、飲食店があらかじめアプリに登録しておき、フードロスが発生したときに TABETE の登録ユーザーに情報を発信し、定価よりも安いレスキュー価格で提供するというサービスである。店側は、破棄されるはずだった食材の利益が入り、登録ユーザー側は、定価よりも安い価格で食材を手に入れる、Win-Win の関係を構築することができる。また、従来は飲食店をターゲットとした活動が中心であったが、このサービスにより、直売所で売れ残った野菜などを販売する試みも始められている。このような生産側と消費者側の双方に利益をもたらすサービスは、コロナ禍においてもエッセンシャルワーカーである一次産業従事者に安定した仕入れを行うことができ、エッセンシャルワーカーにとっての望ましい将来像の実現に寄与することが可能だと考えられる。

## (3) 住 (インフラ)

下水処理場、廃棄物処理場などは、社会基盤を支える重要インフラであり、業務を停止することが難しい、

現場作業を必要としたエッセンシャルワーカーが多く従事する分野である。これらの処理が滞りなく機能することは感染症による災禍に対し非常に重要であるが、医療・福祉といったメディアにも多く取り上げられた業界と比較し、世間からの認知度が低く、風評被害等のイメージの悪化を免れなかった。風評被害やイメージ悪化はエッセンシャルワーカー本人のみならず、家族の心の健康を害す恐れがあり、イメージアップは非常に重要な課題である。

ここでの問題点は、コロナ禍以前からインフラ分野のエッセンシャルワーカーの業務内容に対する世間の認知度が低いことである。当該問題を解決するためには、インフラに関わるエッセンシャルワーカーの重要性を世間に周知し、風評被害やイメージダウンを抑えることが重要であると考えた。

イメージアップの案として、処理場が行う見学会を利用する。ただし、通常通り見学会を行うだけでは特筆すべき効果は得られないものと考えられるため、企業や地元の業者とコラボレーションを行うことで、一般人の関心と参加意欲を高めることを目標とする。例えば、下水処理場の場合、「BISTRO 下水道推進戦略チーム」<sup>6)</sup>による下水汚泥の肥料利用により野菜や果物を栽培するプロジェクトがあるが、上記の野菜や果物を用い、見学会と試食会をセットで行う。見学会にて一連の下水処理業務の重要性を知り、試食会で、下水処理の副産物を使用して生産された野菜・果物を食すことができるようにすることで、見学会への参加モチベーションを高めようとする試みである。

さらに、地元シェフを招待し調理してもらうことで、より見学会への興味や参加意欲が高まる上に、農家やシェフのブランド価値向上にもつなげることができる。

上記に例として挙げた見学会+試食会のようなコラボレーションの企画・参加者募集を推進するスキームを構築することで、エッセンシャルワーカーのイメージアップを実現することができる。

## 4. ま と め

本稿では、コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーが抱える課題を整理した。課題とは雇用を確保すること、保障が不十分であること、業務に従事することによる健康被害があることなどの点が挙げられる。

これらの課題を踏まえ、社会の「新常态」としての望ましい将来像の提案およびそれを実現させるためのアプローチを中心に議論をしてきた。

望ましい将来像を①個人レベル②社会組織レベル③国レベル④世界レベルに分け、以下のように提案した。

① 健康リスクがなく、個人の自由が尊重され、生

<sup>†</sup> 「TABETE」は(株)コークッキングの登録商標です。

活が担保されている

- ② 個人が自由な選択を行っても組織が持続的に成長できる
- ③ 未曾有の事態においても自国の産業を維持することができる
- ④ 全世界的にパンデミックに対する耐性をつけることができる

今回の議論では、エッセンシャルワーカーの職場環境及び生活の基盤でもある衣食住に着目した。それを支援することで、エッセンシャルワーカーの処遇の改善につながるのではないかと考えた。

一方的な支援ではなく、エッセンシャルワーカーと支援する側の双方に利益があることが重要である。組織に所属するエッセンシャルワーカーがこの支援により組織の成長に貢献することができれば、相互に利益が生まれ、持続的な仕組みの構築が可能であると考えた。

## 謝 辞

EICA 未来プロジェクト TSUNAGU21 II を通して、現場で活躍されている方々からの生の声を聞く機会をいただき、感謝いたします。また、グループ活動にて若手の横の繋がりを醸成し、視野を広げられるネットワークを構築することができました。改めて講師の方々、EICA 事務局、世話人、ファシリテータ、そして参加者の皆様、ありがとうございました。

## 参 考 文 献

- 1) WHO:「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO 公式情報特設ページ」
- 2) 厚生労働省:「国内の発生状況など」
- 3) 日本経済団体連合会:「緊急事態宣言下におけるテレワーク等の実施状況調査」(2021)
- 4) 厚生労働省:「令和元年賃金構造基本統計調査(初任給)の概況」(2019)
- 5) 総務省統計局:「産業別常用労働者1人平均月間総実労働時間数」(2019)
- 6) 国土交通省:「食と下水道の連携について ~ BISTRO 下水道 ~」(2013)